



2025年3月31日

各 位

上場会社名	株式会社サンリツ	
代表者	代表取締役社長	三浦 康英
(コード番号)	9366 東証スタンダード)	
問合せ先責任者	取締役常務執行役員	尾留川 一仁
(TEL)	03-3471-0011)	

## 当社連結子会社における不正行為に対する再発防止策に関するお知らせ

当社は、2024年9月30日付「連結子会社における不正発覚及び調査費用による業績影響に関するお知らせ」及び2024年10月31日付「連結子会社における不正行為及び同行為の調査結果並びに業績や会計に与える影響に関するお知らせ」においてお知らせいたしましたとおり、当社連結子会社であるSANRITSU LOGISTICS AMERICA Inc.（以下「SLA」といいます。）におきまして、SLAに出向の元従業員（以下「当該元従業員」といいます。）による不正行為並びに当該元従業員から指示を受けた一部の従業員、及びSLA従業員による不正行為が発覚いたしました。この事態を受け客観的な事実確認を行うために、当社のみならず、当社と利害関係の無い外部の調査機関による調査を進め、昨年10月に「調査報告書」を受領いたしました。

このたび、当該報告書の指摘に基づき、また社内における一連の検証が終了したことを受け、具体的な再発防止策を策定いたしましたのでその概要をお知らせいたします。なお、本再発防止策は既に取り組みを開始しております。

### 記

#### 1. 本件不正行為の発生原因

##### (1) 当社グループ全体における内部統制の不備

- ①SLA経営陣（CEO、CFO、COO）に対する役割分担のコントロール不全
- ②当社における連結子会社（SLA）に対する主体的関与の欠落
- ③業績重視の姿勢による内部統制の弱体化

##### (2) SLA内部の体制、仕組等における不備

- ①SLAにおける規程・社内ルール等の不備
- ②当該元従業員への権限集中によるSLAの業務プロセス上におけるチェック機能の不全と内部統制の無効化
- ③当該元従業員によるマネジメントオーバーライドの発生

#### 2. 具体的な再発防止策

今後、本件と同様の不正行為を防止するためには、SLAにおける単一の再発防止策ではなく、グループ全体で網羅的に再発防止策を講じ、継続して実施していくことが最も重要であると認識しております。本再発防止策では、マネジメントオーバーライドを発生させないための『組織体制の見直し』とグループ全体における内部統制制度の見直しによる『牽制機能の強化』を中心に進め、あわせてSLAにおける規程・社内ルールの見直し及び内部通報制度の刷新並びに監査機能の強化等を実施してまいります。

具体的な再発防止策につきましては以下のとおりであります。

(1) SLA 社内における再発防止策

- ①職務分掌及び職務権限に関する規程を見直し、SLA 経営陣の役割分散化することで、権限の集中を回避し、ダブルチェックが機能する体制に見直します。
- ②事務部門責任者の役割分担を分散化し、主要な経理業務を外注化することで客観性、透明性を高めます。
- ③CFO（最高財務責任者）の補助者を選任し、親会社経理部内に配置いたします。当該補助者と SLA の経理責任者とが連携し、相互のチェック機能を果たすとともに、併せて CFO とダブルチェックができる体制を構築いたします。
- ④交際費、出張旅費等の経費に関わる規程を整備し、各種経費の使用に際して当該規程に則って厳格に管理を行ってまいります。
- ⑤マネージャー職以上の従業員の報酬等を含む人事に関する事項は、取締役会における承認事項とします。

(2) 親会社である当社による子会社管理の強化

- ①当社から経理責任者を SLA に派遣し、親会社同等の会計管理及び外注管理を実施いたします。
- ②SLA に出向の当社従業員の報酬等の人事に関する事項は、当社において定期的にその内容を確認することといたします。

(3) 監査体制の強化

- ①内部監査項目を見直し、業績比較による増減等異常値の原因確認を実施いたします。
- ②内部監査調書に不正や虚偽のリスクが想定される指摘項目を別建てで付加し、事態の継続的フォローによるリスクの未然防止に注力いたします。

(4) 内部通報制度の整備

SLA 従業員の内部通報窓口外部委託先を追加し、当該窓口が親会社である当社の内部通報窓口と情報を共有し、早期解決できる体制を構築いたします。

今後は定期的の実効性監査を行い、効果の検証を実施してまいります。

株主の皆様をはじめ各ステークホルダーの皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけしましたことをあらためて深くお詫び申し上げます。

以上